オルタナティブな社会空間の形成
——障害者をめぐる地域活動を事例に——

○一橋大学大学院　加藤旭人

1　目的

本報告は、障害者をめぐる地域活動を事例として、その活動によって生じる社会空間を記述・分析する。毎月第二土曜日と第四土曜日の午前中、東京都郊外F市内の小学校や公民館、市民プラザなど公共施設の一角において、重度知的障害者を対象とした音楽活動やスポーツ活動が行われる。障害者のほかにヘルパーやボランティアなど計 40 人ほどが集まり、音楽家や体育指導員のコーディネートのもと、活動を行う。そのような障害者をめぐる地域活動とは、多様な行為者が、相互作用を通して社会空間を生み出す実践である。

従来の障害に関わる研究は、福祉制度を含めたマクロな領域、あるいは障害者家族、施設、当事者と介助者との関係といったイシューに注目して行われてきたものが中心である。しかし、障害者とローカルな領域の接点は必ずしも十分に明らかにされていない。本報告は、上記の課題に、障害当事者・家族・支援者が生み出す空間の視点から迫るものである。

2　方法

東京都郊外F市における重度知的障害当事者および家族を支援する任意団体（F市教育委員会より事業委託を受けている）を対象とし、活動に対する参与観察およびインタビュー（2014-現在）によって得られたデータをもとにして、多様な行為者の相互行為によっていかなる社会空間が形成されているのかを明らかにする。

3　結果

調査の結果、以下の 4 点が明らかになった。第一に、障害者をめぐる地域活動は、「障害者－健常者」間のみならず障害の程度（軽度・重度）や障害の種類（身体・知的・精神）による重層的な排除を受けた行為者たちが、排除に抗いながら、ヘルパーや家族やボランティアといった多様な行為者と共に自身の社会空間を形成する実践である。第二に、活動によって生じる社会空間は、町内会やセルフヘルプグループや社会運動といった従来の社会組織による活動、あるいは家族や施設とは異なり、障害者やヘルパーのみではない多様な参加者を包摂する空間である。第三に、活動において多様な行為者によって行われる相互作用は、それを通して行為者が変容していくプロセスである。第四に、活動において実践される音楽やスポーツは、行為者間の差異を一時的に解除し共同するための技法である。また、障害者をめぐる地域活動は、音楽やスポーツを用いて、障害という要素を中心にすえつつ障害者のみにとどまらない広く共有可能な文化を創造する実践として捉えることができる。

4　結論

以上の結果から、障害者をめぐる地域活動を、オルタナティブな社会空間を形成する実践として捉える。すなわち、障害者をめぐる地域活動は、障害をめぐる重層的な排除に抗いながら、多様な担い手が相互作用し、また新たな文化が生成する社会空間を形成する実践として捉えることができる。